

19. 貴市町村内で平成19年1月以降、産科(婦人科を除く)の外来診療の診療時間の短縮や休診、分娩への対応の中止等、以前に比べ十分に診療機能を果たせなくなった医療機関はありますか。
- ①今のところ把握していない。
 - ②少数(5施設未満)ある。
 - ③5施設以上存在している。
20. 貴市町村内で、医療機関の機能分担の明確化および連携の向上を目的とした医療の集約化(診療科あるいは医療機関の統廃合等)の計画はありますか。
- ①見られない。
 - ②限られた診療科で見られる。
 - ③医療全般に集約化がみられる。
21. へき地・離島における医療に関して、医療の集約化についてのご意見をお聞きます。下記のうちあてはまるものを3つまでお選びください。
- ①集約化により、へき地では医療へのアクセスが悪くなり、住民の健康レベルが低下する。
 - ②集約化が行なわれると、住民の負担が増大する(通院時間・交通費・宿泊費等)。
 - ③医療の質と安全を目指すためには、集約化もやむを得ない。
 - ④へき地・離島に勤務する医師の協力や能力の向上(移送の判断等)が必要である。
 - ⑤患者・専門医間、へき地の医師と専門医間の相談システムなど新たなシステムが必要である。
 - ⑥医学的に受診が必要な住民には、受診に関わる費用の補助制度が必要である。
 - ⑦その他、ご自由にお書きください。
22. 地域の保健医療対策に関するご意見をお聞かせください。
(必要があれば続紙をつけてください)

ありがとうございました。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	書籍名に同じ	厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	へき地・離島の保健医療サービスを担う医師の研鑽等のための「へき地・離島医療マニュアル」	編集協力ぎょうせい	東京	2006	125
厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	書籍名に同じ	厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	都道府県へき地・離島保健医療計画策定に向けての事例集(平成18年度版)	編集協力鈴木印刷	栃木	2007	108
厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	書籍名に同じ	厚生労働省医療安全・医療技術評価総合研究事業「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」班	へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成19年度版)	編集協力鈴木印刷	栃木	2008	88

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
今道英秋、鈴木正之	へき地・離島における本学卒業生の活動と促進因子および阻害因子	自治医科大学 紀要	Vol. 29 2006	79-91	2006
今道英秋、鈴木正之	へき地・離島医療に対する支援の実態～へき地医療支援機構の機能と効果～	へき地離島救急医療研究会誌	Vol. 7 2006	16-21	2006
今道英秋、鈴木正之	へき地勤務の医師が必要としていること、望んでいること	へき地離島救急医療研究会誌	Vol. 7 2007	64-71	2006
今道英秋、鈴木正之	へき地・離島診療所における救急医療の実態とその課題	日本臨床救急医学会雑誌	Vol. 10 2007	560-568	2007
今道英秋、鈴木正之	「へき地・離島医療マニュアル」の編集にあたって	へき地離島救急医療研究会誌	Vol. 8 2007	11-18	2007
今道英秋、鈴木正之	「へき地・離島医療マニュアル」の有用性	へき地離島救急医療研究会誌	Vol. 9 2008	印刷中	2008